

スペース
スペース
スペース
スペース

退店時の内装材を再利用

モレラ岐阜と連携、新たな什器に

店舗ディスプレイ大手のスペース（東京）は、SCのモレラ岐阜（岐阜県本巣市）と連携して退店テナントの店内装飾をアップサイクルし、新たに生まれた什器をモレラ岐阜の共用部に設置した。退店したテナントの内装材は同じ企業の別店舗で利用されることがある。ただし、多くはそのまま廃棄されるためSCのリニューアルでは大量の廃棄物が発生する。内装材の循環サイクル構築に向けての第1弾と位置付け、廃棄物の削減につなげる。

事業を進めるのはスペースが23年に立ち上げた「リプロダクト推進室」。室長の龍澤知佳さんが、退店した店舗の原状回復工事の現



長室澤龍とサインスタンド
し、スペースの犬山工場で壁面装飾や棚板をプランターカバーとサインスタンドにリメイクして3セットを設置した。さらに再利用で

場で感じていた「捨てるものが多すぎてもったいない」を原動力に、社内提案で生まれた部署だ。ディスプレイ業界のスクラップ・アンド・ビルドのあり方を見直し、捨てない空間作りを目指している。

モレラ岐阜との取り組みでは、今春のリニューアルで退店したる店の残置物と解体対象造作の一部を回収

きるように、できるだけ釘を使わず木組みなどの技を活用している。

店舗の内装材はその店の意匠の一部であり、退店しても他の店で使うことは難しい。また、再利用よりも廃棄した方がコストがかからないといった理由から水循環が進まなかった。さらに企業間の垣根もあり、異なる店舗の内装材を組み

合わせたリメイクや他社への提供などはこれまでは考えられなかった。

リプロ室では「埋め立てゴミをゼロにする、捨てなくてもいいものをゴミにしない、加工すれば使えるものをゴミにしない、ゴミを減らす作り方にする」を行動の4ステップとして、内装材のリユース、リサイクルを促しテナント退店に伴う廃棄物の削減に挑む。